



とらいあんぐる



2015 年 6 月

一音会ミュージックスクール発行

「幸せの風景」

私の中に、私が「幸せの風景」と呼ぶ、ある風景があります。

目を閉じれば、その風景が、はっきりとあらわれます。

しかし、幸せな時に思い出す風景というわけではありません。

そして、思い出しても、幸せな気持ちになる風景でもありません。

それを失った喪失感にさいなまれるばかりです。

それでもその風景は、繰り返し繰り返し、私の中によみがえります。

それは実在の風景で、私の思い出の

中にあります。

それは初夏の田園風景です。ちょうど今頃の季節です。

目の前には一面、あおあおとした水田が広がっています。空は真っ青で、遠くになだらかな山並みが見えます。

どこにでもある、のどかな田園風景です。おそらく、今の季節には、日本中で似たような風景が広がっていると思います。

私の「幸せの風景」は、千葉県の上野市です。

私の母は、亡くなる 8 年前に、生死の境をさまよいました。

その時、私を含め家族は、「このまま

「死なせてはいけない」と、強く思いました。

20代で病気を発症してからそれまで、母の人生は闘病と仕事だけでした。

楽しみもなく、趣味もなく、どこに行くでもなく、ただ病からくる痛みに耐え、必死で仕事をしている人生でした。

旅行もしたことがありません。新婚旅行で箱根に行ったのが、最後の旅行だったと、いっていました。

新婚旅行を最後に、母は40年以上、どこにも行かず、来る日も来る日も、自宅のベッドにいたのです。

こんなにかわいそうなことはないと思いました。

奇跡的に助かった命ですから、そこから先は、違う人生を歩んでほしいと思ったのです。

まず私が考えたのは、旅行でした。

100歳まで生きて、仕事一筋を貫くつもりであった母自身も、いったん死んだことで、変わりはじめていました。

「このまま死ぬのは困る」と、さすがに思ったのかもしれませんが。旅行計

画に、協力的になってくれていました。

実は、それまでも旅行を計画したことは何度もあったのですが、母は「そんなヒマがあったら仕事！」と、一切の楽しみをはねのけてきた人でした。

身体に負担がかかるということも、大きな理由であったに違いなく、本人が望んでもいないのに無理はさせられないと、私もその都度、計画をひっこめてきました。

「どこでもいい・・・どこか、自分の家から離れたところに行って、違う景色を見てみたいわ」と、母はいうようになりました。

最初に計画したのは、箱根でした。

最後に行った新婚旅行の地でした。

介護用ではない普通のベッドに母を寝かせることに、不安がないわけではありませんでした。しかし、設備の整った良いホテルを利用すれば大丈夫ではないかと思いました。

もちろん、母が普段使っている寝具を車に積めるだけ積んで、いつもの環境を再現できるようにしました。

しかし、不安は的中します。

母は、身体の痛みで一睡もできず、

わずか一泊の旅行で、すっかり体調を崩してしまいました。その一泊で痛めた身体の痛みから、眠れない日が何日も続きました。

これ以上ないほど、万端の準備をした旅行は、大失敗に終わります。

もう旅行は無理なのか・・・。

しかし、あきらめきれずに、あれこれ考えた末、1つの名案に行きつきます。

自宅から離れたどこかに、小さな小さなマンションを買い、そこに母が使っているものと同型のベッドを置き、まったく同じ環境を用意すれば良い、と考えたのです。

その先が勝浦だったのです。

母は、何度か勝浦に身体を運ぶことができました。

勝浦滞在中のある時、両親と私たち夫婦、子ども二人で、散歩に出かけたことがありました。

圧倒されるような、色あざやかな水田を目にし、そんな風景になじみのない私と母は、そこを動くことができなくなってしまいました。

息をのむような美しい風景でした。

気がつけば、風景などに興味のない幼い子どもたちは、私の父に連れられて、田んぼのあぜ道を歩いていました。

田んぼの中にのびる細い道を、父を先頭に、子ども二人が列を作って、歩いています。キョウコが時々、立ち止まり、私たちの方を向いて手をふりまします。

私は、母の車椅子のうしろに立ち、のどかな風景を、ぼんやりながめていました。私の夫も、私のとなりに立ち、同じように風景を見ていました。

その時、母は突然、こんなことをいったのです。

「この風景を、よく見ておきなさい。よく覚えておきなさい。アヤコの人生で、今が一番、幸せな時なのかもしれない・・・」

私は、よく意味が分かりませんでした。

母は静かにいいました。

「お母さんは、今にいなくなる・・・」
はっとしました。

ぼんやりしていた私は、突然、冷たい水をかけられたかのような思いでした。

母は、続けます。

「お父さんも、今にいなくなる。お父さんとお母さんが、こうしてあなたのそばにいてあげられる時間は、そう長くない・・・」

私は、否定できませんでした。

今すぐではない、けれどもその日は、確実にやってくるのです。

「子どもたちも、大きくなる。あなたのそばを離れていく。近くにいる、ああしてかわいらしい姿を見せてくれる時間は、そう長くないの・・・」

本当にその通りだと思いました。

父がいて、母がいて、かわいらしいさかりの子どもたちがいて、私も夫も、若く健康でした。

その幸せのパーツが、これからは1つ、また1つと、欠けていくのです。

その時の母は、どこか虚ろでした。

おそらく母が見ていたのは、目の前の風景ではなかったのでしょうか。

母はその時、母自身の「幸せの風景」、人生の絶頂を見つめていたように思います。

それ以降、私にとって「幸せの風景」とは、今ある幸せが、永遠ではないことに気づかせてくれるものです。

実際、私は大きな幸せのパーツを3年前に失い、もうあの時の風景に身を置くことができません。

これからの人生、また違うパーツを得て、また違う「幸せの風景」を見ることができるようでしょうか。いつかそんな日が来ると思えたら良いのにと、思うのです。

(江口 彩子)

◆リハーサル・トライをおこないます

新年度がついこの間、はじまったような気持ちでいたら、もう初夏です。

今年も、夏の「ピアノ発表会」が近づいてきました。準備が思うように進んでいない生徒さんも、まだまだ大丈夫です。例年、これからの時期に、皆さん、ぐっと成長されるのです。

人は、追い詰められてはじめて、底力を発揮できるものなのかもしれません。生徒さんをこれだけ駆り立て、成長させる力を持つのですから、やはり「ピアノ発表会」はすごい！と、毎年この時期になると、思います。

その成長を後押しするものとして、今年も「リハーサル・トライ」をおこないます。「リハーサル・トライ」とは、普段のレッスンのほかに、人前で演奏したり、グランドピアノで演奏したり、別の先生に見てもらったりすることで、演奏にみがきをかけるためのものです。

ピアノ発表会参加予定の生徒さんは、無料でお受けいただくことができます。今年も昨年と同様の方式で、ご希望いただいた時間帯の生徒さんの中で、ミニ発表会をします。なるべく、本番と同じ状況を作り、演奏にのぞんでもらいます。

グループには、経験豊かな先生がつきそい、進行にあたります。もし演奏に改善点があった場合には、担当の先生に直接、連絡をします。生徒さんご本人に直接伝えて、混乱させることはありませんので、ご安心ください。

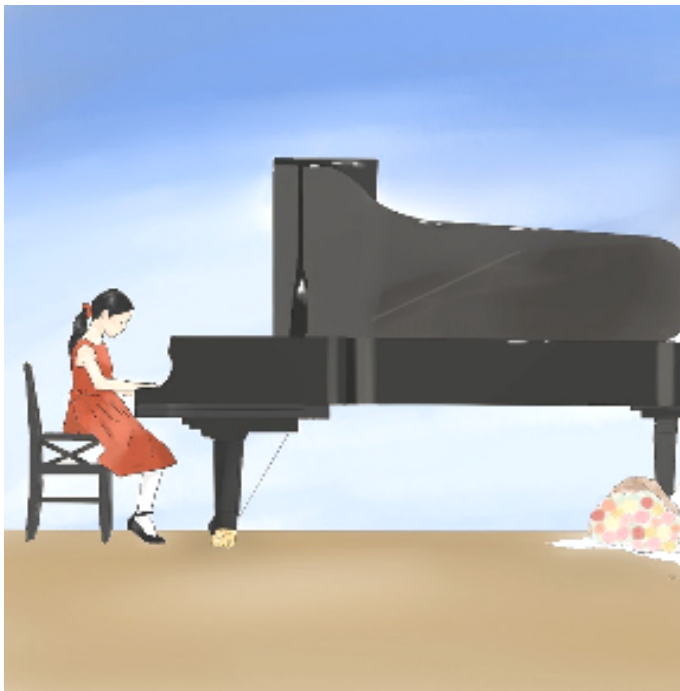
舞台上上がる時にたいへんなことは、やはり緊張です。普段、上手に弾けていたのに、緊張のせいで思うように弾けなかった・・・といったことは、多くの生徒さんが体験済みだと思います。

緊張をゼロにすることはできません。しかし、「リハーサル・トライ」の場を活用し、緊張の中で弾く経験を事前にしておくことは、おおいに役に立つはずで、できるだけ、本番で本来の力が発揮できるよう、スタッフ一同、お手伝いしたいと考えております。

特に、普段のレッスンで、アップライトピアノを弾いている生徒さんにとっては、本番と同じグランドピアノで弾く機会は必要です。鍵盤はいつものピアノと同じはずなのに、ピアノの大きさが違うために、混乱してどこを弾いたら良いか、分からなくなってしまった生徒さんは、過去に多くいらっしゃいます。ぜひ、「リハーサル・トライ」をご活用ください。

「リハーサル・トライ」の場所は、基本的には「ヘンデルはうす」103か204のお部屋を予定しています。

各曜日に、「リハーサル・トライ」の時間帯をもうけますので、ご都合の良い日時をお選びになって、お申込みください。お申込み〆切は6月21日（日）です。（日①の方は28日〆切）詳しいご案内は、「発表会のお知らせ」の中に、折りこんでありますので、ご覧ください。ご不明な点は、本部まで直接、おたずねください（03-5966-7711・担当：矢島、伊藤）。



◆「ピアノ発表会」が近づいてきました

今年のピアノ発表会は、下記の通りです。

7月30日（木）・31日（金）・8月1日（土）・2日（日）
成増アクトホール（東武東上線「成増」駅より徒歩1分）

今年は、駅からのアクセスがとても良い「アクトホール」です。一音会にとっては、使い慣れたホールでもあります。

現在、「発表会のお知らせ」を、お配りしています。中に、「ピアノ発表会・申込み

用紙」が入っていますので、ご記入ください。レッスンの際に、「ショパンはうす」受付でご提出いただくか、担当の先生にご提出ください。本部にFAXしていただくのもけっこうです（本部FAX番号：03-3957-8864）。

ご提出の〆切は、6月28日（日）です。

この用紙は、お手数ですが、ご参加になれない方にも提出していただきます。過去に、申込み用紙をお出しになっていない生徒さんを不参加としていたところ、用紙を提出し忘れていただけだった、ということが多くありました。そういった事態を防ぐために、不参加の場合にも、念のため、その旨の意思表示をいただきたいと思っています。お手数ですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

申込み用紙には、参加希望日も書いていただくようになっています。できるだけ、ご希望にそうようにいたしますが、例年、曜日によって、ご希望人数が極端に違ってしまふことがありますので、個別にご相談の電話をおかけすることがあります。どうぞご理解ください。

お申込みいただいた後で、日程的なご都合が変わった場合は、できるだけ早くご連絡ください。

◆発表会費の引き落としについて

発表会費は、7月27日（月）の8月分お月謝引き落とし時に、お月謝と一緒に、お引き落としさせていただきます。よろしくお願いいたします。

◆節電にご協力ください

6月に入り、暑い日が多くなってきました。

防音の関係で気密性の高い教室は、お部屋が暑くなりがちです。特にグループレッスンのお部屋は、集まった人の体温と、お子さまの情熱で、エアコンをかけていても、暑くなります。

すでに教室では、ほとんどの場面でエアコンを使っていますが、お子さまには薄着になれる服装でいらっしゃるよう、よろしくお願いいたします。お子さまにあわせてお部屋を冷やすと、つきそうおうちの方には寒くなってしまふことも多く、お子さまに薄着になっていただくのが、ベストです。涼しいと思える日でも、上はTシャツ1枚くらいになれる服装が、ちょうど良いです。

◆待合スペースや廊下では、お静かに

新年度がスタートして軌道に乗り、お子さまもおうちの方も、緊張がとけてきた頃ではないかと思えます。

最近、レッスンをお待ちの子供さん、おうちの方が、待合スペースや廊下で、ついおしゃべりに夢中になってしまわれ、レッスンに支障が出てしまう、ということが、たびたびおこっています。

待合スペースや廊下も、レッスン室の延長です。すぐ近くに、ピアノのレッスンやハタのレッスンを受けているお友だちがいらっしゃることを、常にお気にとめていただきたいと思います。

◆教室の修繕について

ショパンはうす、リストはうすの修繕の検討を始めています。そのほかにも、少し大がかりな修繕を行ないたいところもあり、工事の内容、期間について、再度、検討をしているところです。工事期間中は、レッスンに影響がでてしまいますので、影響を最小限にとどめるために、夏休みを使うことになるかもしれません。今、しばらくご辛抱下さいますよう、お願いいたします。

◆時節のご挨拶など ご遠慮いたします

入会時にも「ガイドブック」にてお知らせしておりますが、一音会では、お中元、お歳暮、発表会のお礼などを、スクール、先生個人に関わらず、一切ご遠慮させていただいております。以前よりこの方針を皆さまにお伝えしておりますので、どうぞご理解のほど、お願いいたします。

スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

- * お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。
- * ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。